# 栄養茨城 FLASH No.14

発行日／平成28年３月22日
発行所／公益社団法人 茨城県栄養士会


〒310-0034　水戸市緑町３-５-35
TEL 029-228-1089　FAX 029-228-4271
http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp/


CONTENTS


会長あいさつ　P1
表敬訪問（病院協会会長）　P2
受賞おめでとう　P4
栄養ケア活動支援整備事業　P5
イベント用パネルを作成しました　P6
平成27年度主な研修会報告　P7
常総市水害について・会員増対策等　P8

## 県民の健康づくりの担い手に

会長　政　安　静　子

平成27年度は，県民の栄養・食生活支援を充実させるため，平成26年度に引き続き，厚生労働省「栄養ケア活動支援整備事業」を受け，栄養ケアステーション事業の拡充を図りました。クリニックから「引き続きの指導の依頼」「非常勤管理栄養士の採用」「指導報告書により指導の現場が想像でき，有り難い」などの声があり，関わった管理栄養士の指導力の向上を確信することができました。

また，茨城県長寿福祉課から平成27年度高齢者栄養ケア推進事業の委託を受け，「地域ケア会議」「住民運営の通いの場」「訪問・通所介護」「サービス調整会議」への派遣を行いました。さらに，東海村から後期高齢者を対象とした食生活指導事業の委託を受け，昨年と同様に個別指導を行いました。まず，派遣する管理栄養士の資質の確保・向上を図るための研修会には約50人の参加がありました。研修全日程を終了し，クリニックや在宅診療，地域の高齢者に食習慣・栄養指導を行い，報告書を提出した者には，平成28年度の総会で認定書を交付したいと考えております。

この指導者研修は，平成28年度も春（４月～）と秋（９月～）に実施する予定です。研修内容は，食事アセスメントを実施し，栄養支援計画を立て，個々人に合った具体的な指導を実践するために，食事アセスメントの結果を読み込む技術と指導方法を講義・演習形式によるものです。食事アセスメント技術は，県民の行動変容を支援する最良の技術です。多くの栄養士・管理栄養士が修得できれば，県民の食習慣の課題を解決し，生活習慣病の漸減や高齢者の栄養改善ができ，県民の明るい豊かな社会づくりに役立ちます。

県民の健康を守るために，会員自ら専門職としての技術を高め，栄養ケア活動を推進する必要があります。それには，全会員が高い倫理観を持ち，県民の健康づくりを担うという役割が果たせるようなシステムを構築し，会員全員が情報を共有でき，県民への貢献ができることを願っております。

## 定時総会役員選出

平成27年５月28日(木)茨城県立県民文化センターにおいて，公益社団法人茨城県栄養士会第４回定時総会並びに日本栄養士連盟茨城県支部通常総会が開催されました。その折，役員の改選が行われ，次の通り選出されました。　（文責　高津戸　みち子）

**公益社団法人 茨城県栄養士会**

| | |
|---|---|
| 会　長 | 政安静子 |
| 常務理事 | |
| 総務部長 | 須能惠子 |
| 組織部長 | 山口雅子 |
| 学術部長 | 岡　純子 |
| 事業部長 | 住友かほる |
| 広報部長 | 大賀智子 |

**日本栄養士連盟 茨城県支部**

| | |
|---|---|
| 名誉支部長 | 政安静子 |
| 支部長 | 髙橋征子 |
| 副支部長 | 矢代あや子 |
| 副支部長 | 山崎みち子 |
| 幹事長 | 佐藤満子 |
| 財政部長 | 佐藤満子 |

## 連盟に加入しましょう

毎年４月は，新しく栄養士・管理栄養士の国家資格取得者が職場に配置され，社会人として活躍が期待されています。栄養士会も新人会員を歓迎し，研修会等を開催し，会員の資質向上に尽力しています。

その栄養士会活動の目的を達成するため，必要な政治活動を行うのに栄養士連盟が結成されています。

連盟が結成されている会を政治家（知事・国会議員県会議員等選出される者）は団体票として確保できると考え要望の実現に尽力します。政治家の目的は選挙時の投票ですから会員数が多い団体ほど大切にします。

団体は献金や投票を約束し要望の実現を図ります。

栄養士連盟は会員が少なく（栄養士会員の約60％）会費が低額のため，献金でなく政治家との誠実なお付き合いと選挙時の協力，応援を実行しています。今年は，連盟の理解を得るために研修視察として東京ビッグサイト展示会や県議会傍聴を開催しました。連盟の力は会員数です。栄養士連盟も力を発揮できるよう連盟加入をお願い致します。　（文責　髙橋　征子）

表敬訪問

# 諸岡信裕　茨城県病院協会会長

地域包括ケアシステムの構築が推進される中，本会の事業に御支援いただいている茨城県病院協会会長の諸岡信裕先生を訪問させていただきました。地域医療の発展に長年尽力されてきた先生から，高齢者医療の現状や青少年の健康教育の課題をお聞きすることができました。また，医学生時代や多才な趣味の話をされる人間性豊かな先生に魅了された訪問となりました。

（司会　綿引久子事務局長）

**局長**…本日はお忙しいところお時間をとっていただきありがとうございます。限られた時間ですが，先生からいろいろなお話をお聞きし，栄養士へのアドバイスもいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 自然に・・・

**会長**…医者になろうと思ったきっかけはどのようなことからですか？

**諸岡**…初めは医師になりたいという意思は強くなかったけれど，祖父も父も兄も医者だったので，医者の世界は身近に感じていました。自然にそのような気持ちになったかなあ。挫折をしながらも医学部を目指して，金沢大学に入学しました。

**岡**…内科を選択した理由は？

**諸岡**…もともと循環器系が好きで，金沢大学を卒業後は，千葉大学循環器内科に勤務し，小川（旧小川町）に来る平成５年までの25年間循環器の仕事をしました。循環器内科の仕事は面白いですよ。若いころは放射線を浴びないように10kgの鉛の服を着て，冠動脈とか心臓の動脈の造影をしょっちゅうやっていました。一人２時間位カテーテルをやるとへとへとでしたね。

## 吾輩は猫派である

**小野**…先生は，多趣味と伺っておりますが・・・

**諸岡**…最大の趣味は，鉄道ですね。鉄道のことだったら誰にも負けないですよ。鉄道の写真をとることも鉄道に乗ることも模型を作ることも大好きです。子供の頃，父や兄も鉄道が好きだったので，自宅の池の周りに線路を引いて電気を通し，自分で車両を作ったりして楽しんでいました。

**会長**…そのほかのご趣味は？

**諸岡**…猫ですね。僕は犬派ではなくて猫派です。３匹の猫を飼っているのですが，猫を抱っこしていると一番の癒しです。

**岡**…猫はどんな種類をかっているのですか。

**諸岡**…和猫です。うちの猫はみんな病気を持っていて，アレルギーがあったり，糖尿病になった猫には，インスリンを打ったり，食べられなくなった猫には点滴をしたり，猫の介護もたくさんやりました。猫の気持ちを理解しないと高齢者のケアもできないですよね。動物は話せないから，よく見て心を共有してあげないと。

**会長**…音楽もお好きとお聞きしましたが・・・

**諸岡**…聞くのは好きですよ。色々なジャンルを。クラシックからAKBまで。昔は，森高千里，安室奈美恵，キロロ，ELTのファンクラブ入っていました。家族でコンサートにも行っていました。また，大学生の時には，ピーター・ポール&マリーのコピーバンドを作って女性だけを400人くらい集めてコンサートやったこともありた。

**小野**…多趣味でどれも極めていらっしゃるのですね。


Yakult

ヤクルト400に比べ
甘さ・カロリー
ひかえめ
ヤクルト400LT

ヤクルト400

お申込み・お問合せは 0120-11-8960
（受付時間：9:00～17:30 土・日・祝日を除く）
水戸ヤクルト販売（株）／水戸市谷津町1-35 〒311-4164 ☎029（251）8960
古河ヤクルト販売（株）／古河市南町1-62 〒306-0015 ☎0280（31）8960
千葉県ヤクルト販売（株）／習志野市茜浜2-5-2 〒275-0024 ☎047（452）8960
いわきヤクルト販売（株）／いわき市小名浜林城字向田2-1 〒971-8122 ☎0246（58）8960

## 顔が見える連携を

**諸岡**…平成５年に小川に来てからは，地域医療と高齢者の医療ですね。それで，１年間勉強してケアマネジャー（介護支援専門員）の資格を取りました。勉強してよかったと思うことは，傾聴するということ。同じ目線で人の話をよく聞くということの大切さがよくわかり，高齢者医療も含めて介護支援専門員をとったのは非常に勉強になりました。

**会長**…先生は，勉強熱心ですね。

**諸岡**…茨城県の地域医療や地域包括ケアシステムを構築するには，医師がケアシステム等をよく理解し，周りの医療系の皆さんと顔の見える連携を作ることが必要だと思っています。違う立場の人たちが同じ目線で話をし，話を聞くということが大事になるので，それらについては，僕らも一生懸命勉強しなければと思っていますし，今後の課題ですね。

**諸岡**…現在，認知症は軽症も含めて約600万人もおり，生活習慣病を含めて認知症対策が問題になっています。アルツハイマー型認知症も脳血管性認知症も基本的には生活習慣病を予防することが認知症対策になります。生活習慣病を予防するのは，１に運動ではなく，１に栄養，２に運動ですね。運動はいつもできるわけではないから。食事は，必ず１日３回食べるので，食事・栄養がこれからの課題となり，栄養士の皆さんにさらに活躍してもらえる場面になるかと思います。食に関しては，栄養士会と歯科医師会・言語聴覚士会の方たちを含めて連携するケアが必要ですが，なかなか現実的には難しいですね。

## 若い世代に食事の指導を！

**諸岡**…事業所で健康診断をやると，肥満の人が大変多いです。25から30歳ぐらいでBMIが30，中には40近い人もいます。そうなると食生活が非常に問題になりますね。栄養のバランス等を栄養士がきちんとフォローする必要があります。事業所でも栄養指導をしていかないと，生活習慣病を減らすのは難しいですね。

**岡**…そうですね。今，特定保健指導の対象は40歳以上ですものね。

**諸岡**…だから，25歳から30歳といった若い世代の人たちを指導していく必要がありますね。

**会長**…そうですね，大学生の食事内容の調査をして食事の内容があまりにも偏っていて驚きました。

**諸岡**…若い世代も極端ですよ。BMI30の人もいればBMI17，18の人もいますから。話を聞いてみるとみんな体調はよくないですね。食生活も非常に偏っているし・・・

**局長**…今年度，専門学校の学生の食事調査をやりましたが，朝，教室で食べているものは菓子パンとペットボトルの飲み物だけでした。大体，外食やコンビニで買ったものを食べている食事だから栄養素の過不足が大きく，本当に大きな問題です。

**諸岡**…健康も含めて，就職活動や結婚にも支障がでると思うので，小中学校だけでなく，親元を離れ自活する大学・専門学校の学生の世代にこれからは食事の指導をしたほうがいいと思います。

**小野**…女子の場合は赤ちゃんを産むという大事なこともありますし。

**諸岡**…そうですね。女子の場合はBMIが17，18だと生理不順の子も多いですね。

**会長**…今の子どもをこのまま放置したら生活習慣病で親より先に逝ってしまい，高齢者ばかりが残ってしまうという心配もありますので，子どもをきちんと育てる必要がありますね。

## 栄養士に期待すること

**会長**…最後に私達，管理栄養士・栄養士に期待することを一言お願いいたします。

**諸岡**…すべての生活習慣病も認知症も基本的には食生活がベースなので，これからの医療の一番は食事・栄養です。その次に運動，３番目に禁煙だと思うので，当たり前と思っている食事も結局は自分の健康に一番関係しているということを，きちんと自覚できるよう，栄養士さんにはぜひ頑張ってほしいですね。また，大人になっていろいろな病気がでてくるので，子どもと大学生の年代の栄養指導をきちんとやることが大事だと思います。

**会長**…ありがとうございます。私達もがんばらないと。まだまだやることがたくさんあるので，ご支援いただければありがたいです。

**全員**…ありがとうございました。

# 受賞おめでとう
## 大臣賞・知事賞・保健福祉部長賞

永年の栄養士活動が認められ，平成27年度表彰された方々をお知らせします。　（敬称略）

### 栄養関係功労者厚生労働大臣表彰受賞者

常磐大学
荒　田　玲　子

元㈱日京クリエイト
武　石　愛　子

### 文部科学大臣優秀教職員表彰受賞者

〔個人〕
ひたちなか市立市毛小学校
樋　口　教　子

〔団体〕
茨城県立勝田特別支援学校

### 茨城県知事感謝状受賞者

・第四回定時総会

| | |
|---|---|
| 川崎胃腸科肛門科病院 | 吉　成　純　子 |
| 国家公務員共済組合連合会水府病院 | 野　上　久美子 |

・県民健康づくり表彰式

| | |
|---|---|
| 古河赤十字病院 | 小　吹　良　典 |

### 茨城県保健福祉部長感謝状受賞者

・第四回定時総会

| | |
|---|---|
| 会田記念リハビリテーション病院 | 齋　藤　幸　子 |
| ひたちなか市児童福祉課 | 須　藤　日出子 |
| 土浦市健康増進課非常勤 | 吉　田　弘　子 |

・県民健康づくり表彰式

| | |
|---|---|
| ㈱日京クリエイト | 酒　井　富美子 |
| 地域活動（水戸市） | 小　田　由美子 |
| ㈲総合健康企画ヴィヴァン | 小　室　秀　子 |
| 結城市保健センター | 成　瀬　和　恵 |

## 高萩高校食育講座

一人一人が輝く活力ある学校づくり推進事業「マイカラタイム」の一環として，茨城県立高萩高校１年生３クラス同時展開で２日間授業を実施しました。３人の茨城県栄養士会会員の管理栄養士で行いました。「マイカラタイム」とは，自分のからだ(MY BODY)と自分の色，個性(MY COLOR)をかけて健康意識を高め，理想とする自分に近づくためのキャッチコピーのことです。生徒の実態に合わせ「早寝早起き朝ごはん」「嗜好飲料の砂糖の含有量」等について，三人で同じスライドを用いて授業を行いました。一方で「食生活アンケート」の内容を先生方と検討して「マイカラ食生活アンケート」として，授業の前後に２回実施しました。アンケートの数値に余り改善は見られなかったです。ただ，授業の中での班ごとの発表では，生徒たちは各自今後の食生活での目標をしっかりと見つけていて、頼もしく感じました。今の気持ちを忘れないで，理想とする自分に近づくために立てた「目標」を実践して行って欲しいと願っています。（文責　渡邉光子）

## ヤクルト提唱のつどい

２月10日，つくば国際大学において第14回茨城県健康づくり提唱のつどいが開催されました。はじめに国立健康・栄養研究所の山内淳先生より「新しい食品表示制度」について講演があり，食品の安全性の確保，栄養改善・健康増進を図る目的で表示されている栄養成分表示や機能・用途の表示，新設された機能性表示食品制度などの現状と課題について解説いただきました。続いて「プロバイオティクスの医療現場での応用」について，ヤクルト本社の早川和仁先生よりご講演いただきました。プロバイオティクス（生きた乳酸菌やビフィズス菌）にその増殖因子となるオリゴ糖などを併用する“シンバイオティクス療法”によって，抗菌薬に頼らず手術後の感染症発症を低減させた事例，栄養素の吸収障害がある短腸症の小児が腸内有害菌の低減により体重増加が認められた事例などが報告されました。会場には栄養士・管理栄養士のほか養成施設の学生も多数参加し，熱心に聴講していました。

（文責　鈴木　薫子）

## 賛助会員活躍一覧

| | | |
|---|---|---|
| ◎商品展示 | 総会 | 27社 |
| | 栄養健康改善学会 | 9社 |
| | 給食施設調理従事者研修会 | 3社 |
| | 茨城栄養学術講習会 | 4社 |
| ◎ランチョンセミナー | | 1社 |
| ◎新春懇談会 | 参加 | 23社 |
| | 商品協力 | 31社 |
| ◎広告バナー | | 6社 |
| ◎広告掲載 | 総会資料 | 4社 |
| | 栄養茨城（フラッシュ） | 3社 |
| ◎広告チラシ | | 1社 |

# 栄養ケア活動支援整備事業 2年目の取り組み

## 概　要

高齢化が急速に進んでいる中で，増大する在宅療養者に対して栄養ケアの担い手である管理栄養士等の不足が生じてきています。厚生労働省が，平成24年度から潜在管理栄養士等の人材確保及び関係機関・関係職種等と連携した栄養ケア事業に財政的支援行い，４年が経過するところです。

昨年度に引き続き，栄養ケアを担う管理栄養士の人材を確保し，管理栄養士の新たなスキルの向上を図りつつ，医療機関や地域包括支援センター等と連携した栄養ケアを進めています。まだモデル事業としての取組みですが，今後，県内全域で活動を展開していくために，そのシステム構築が必須となっています。

今年度も事業を実施するにあたり，５つのワーキンググループを設置しました。

組織ワーキングでは，人材確保としての管理栄養士の発掘と栄養ケア・ステーションに関する広報を進めました。研修ワーキングでは，管理栄養士のスキル向上を図るために，食事アセスメント法についての研修システムの構築を進め，新たに在宅訪問栄養食事指導についての研修を企画・実施しました。事業ワーキングでは，医療機関及び地域包括支援センターと連携した栄養ケア・モデル事業を実施するとともに，医療機関での継続指導の実施に繋がるようシステムの構築を進めました。連携ワーキングでは，地域高齢者を対象とした集団指導による栄養指導・食生活支援事業を実施しました。地域ボランティア組織との連携した，早期介入の栄養ケアの効果に期待しているところです。総務ワーキングでは，モデル事業の評価に係る調査を行いました。

栄養ケア・ステーションの取組みに対する認知度を高めるには，まだまだ努力が必要です。

会員の皆様に事業のご理解いただき，今後更に，専門研究会の枠を外した栄養ケア・ステーション運営の協力体制が必要と考えます。　（文責　綿引　久子）

# 各ワーキンググループの事業実施状況

## 総　務

総務ワーキングでは，より良い事業の展開を目指して，栄養ケア事業の事業評価を行っています。事業の成果を確認するとともに，次の事業展開のための改善点を探って行きます。事業評価をするために，今回栄養相談に御協力いただきました医療機関（クリニック），地域包括支援センターのケアマネジャー，栄養相談を受けた相談者に，それぞれ質問票による調査をさせていただきました。御協力いただきました皆様に紙面をもって御礼申し上げます。

調査回答結果から，今後以下の視点で事業評価を行います。相談者への質問からは主に①管理栄養士の説明内容の理解②管理栄養士からの改善点の提案の適切性③栄養相談の成果の３視点です。医療機関（クリニック）とケアマネジャーへの質問からは①事業の実施体制②治療（栄養改善）への貢献③望まれる栄養ケア体制についてです。

プロセス評価，結果評価をしっかり行い，栄養ケア事業をより実効性のあるものにして行きたいと考えます。その先に，県民に役立つ栄養ケア･ステーションの確立が見えてくると思っています。（文責　須能恵子）

## 組　織

急速な高齢化に伴い，有病者及び高齢者に対する栄養ケアの重要性が増大してくることから，長期にわたって活動できる管理栄養士の人材確保が必要となります。組織ワーキングでは，人材確保のための活動を行いました。研究教育・公衆衛生専門研究会の皆様にご協力により，30市町村保健センターに募集チラシを常設していただきました。また，昨年度掲載が見送られた７市町村に広報紙への記事掲載をしていただきました。また，管理栄養士養成大学の同窓会報にも掲載していただきました。ご協力に感謝いたします。民間情報紙４社に募集記事を無料で掲載していただき，７件の問い合わせがありました。市町村広報紙を見ての問い合わせが13件と一番多く，関心の高さと効果を感じました。今後，栄養ケア・ステーションをさらに円滑に運営していくには，包括グループに関わった管理栄養士への調査等を行い，評価・検討する必要があると思います。また，子育て世代の管理栄養士が限られた時間の中で働ける労働体系を検討し提言していかなければならないと考えています。

（文責　住友かほる）

## 研　修

人材育成のためのスキルアップ研修会として，食習慣指導を実施するためのアセスメント法（基本編，疾病編Ⅰ，疾病編Ⅱ）について，東京大学大学院助教朝倉敬子先生による講義を３日間行いました。続いてBDHQを用いた食事アセスメントの演習を３日間行い，さらに受講者を６班に編成し，実際のクリニックと，地域包括支援センターの症例について，グループワークによる検討会を実施しました。また，高齢者在宅療養者へ関わり方，関係医療従事者との連携方法等を学ぶ目的で，結城市において，在宅医療に従事されております医師荒井康之先生と在宅訪問栄養指導を行っている管理栄養士の立場から，潮田直子さん，古賀奈保子さんよる研修会を２日間行いました。そして，高齢者の食生活支援を行う目的から，電子レンジ専用調理器（ベジ・シェフ）を活用した基礎調理及び応用料理について常磐大学教授荒田玲子先生による実習を行いました。今後高齢者在宅療養者への栄養ケアのニーズが高まることが予測されます。多職種と連携し柔軟に対応できるよう常にスキルアップを目指すことが必要であると感じました。　（文責　岡純子）

## 事　業

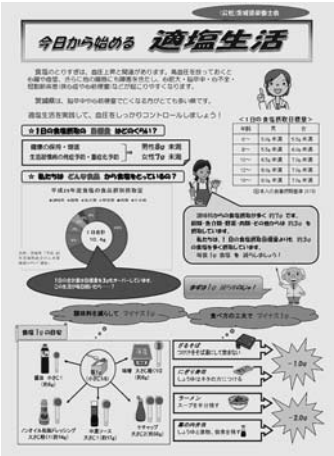
事業ワーキングは，クリニック及び地域包括支援センターと連携した栄養ケア・モデル事業を計画，実施しました。今年度は事業の実施対象地域を拡大し，新たなクリニック及び市町村と連携することとなり，クリニックは県南，県西，県北地区の７か所で，地域包括支援センターは１か所でご協力をいただくことが出来ました。また，栄養ケア・モデル事業の準備として，新しく医師の指示書兼情報提供書を作成しました。指導対象者について，医師が栄養指導の依頼内容や治療情報を記入しやすく，管理栄養士が必要な情報をきちんと収集できるような内容にしました。また地域包括支援センターではケアマネジャー等地域包括支援センターの職員を対象に，栄養・食事支援の理解を深めるために研修会を実施しました。実際の指導は，９月末から開始しました。対象者に対して「BDHQ」をツールとして食事アセスメントを行い，その結果に基づき食習慣指導を３回実施し，再度「BDHQ」によって評価を行いました。前年度より食習慣指導を１回多く実施できたことで，対象者に対し効果のある栄養・食事支援につながればと思います。（文責　大賀　智子）

## 連　携

連携ワーキングでは，地域ボランティアと連携し，地域高齢者を対象とした栄養・食生活支援モデル事業を計画致しました。県内各地域で活動を行っている食生活改善推進員の方とシルバーリハビリ体操指導士の方と連携した栄養ケアを実施し，介護度の重症化予防を目的と致しました。具体的には，筑西市と常陸太田市の２カ所にてシルバーリハビリ体操教室に通う高齢者の集団に対し，食事アセスメント（BDHQによる調査）に基づく指導を３回（ベジ・シェフ料理含）実施し，最後に再度BDHQを実施し評価を行いました。食改の方にはアセスメントの聞き取りサポートを，体操指導士の方には事業実施時の進行をサポートしていただきました。実際の集団指導では，減塩をテーマに管理栄養士から高血圧と栄養素の関係，自分がどんな食品から食塩を摂取しているか，何を食べ控えて何を食べ増やせばいいのか等の講話やグループワークを通して自身の減塩取組みを決定し実践していただきました。今後も同様の事業を実施しながら支援体制の構築を進めていき，地域における食支援ネットワーク作りを目指していきたいと思います。　（文責　山口　雅子）

## イベント用パネルを作成しました

事業部では県民の健康づくりのため，「みんな元気に健康寿命を延ばそう」をテーマに，パネルを作成しました。３枚１組となっており，まず１枚目は県民の疾病別死亡率や食生活の現状から「食塩の摂り過ぎ」「野菜の摂取が少ない」という２つの課題を導き，「マイナス１g・プラス一皿」の合言葉を掲げました。続く２枚目は「今日から始める適塩生活」の実践に向け，特に食塩の摂取源となる調味料の使い方や食べ方の工夫で，食塩を『マイナス１g』するコツを伝えました。３枚目は「野菜は１日350g以上」を目標に，１日分の野菜量や手ばかり１食分を写真で示し，毎日野菜を『プラス一皿』と呼びかけ，最後は楽しく野菜あてクイズで締めました。早速９月から「生活習慣病中央地区健康フォーラム」（県医師会）や「健康づくりキャンペーン」（県保健予防課），「健康スポーツフェスティバル」（ひたち公園管理センター）において展示し普及活動を始めています。



なお，パネルは貸し出しも行っていますので，ぜひご活用下さい。そして，多くの方に「マイナス１gプラス一皿」を実践していただきたいと思っています。

（文責　渡邉　直子）

エーデル
EDEL
おかげ様で160,990枚
ゴア®羽毛ふとんは
多くのお客様にご愛用いただいております。
Since 1994　2015年10月末現在

東洋羽毛北関東販売株式会社
茨城営業所　フリーコール 0120－461－590
〒310-0842　茨城県水戸市けやき台2-19-2

# 平成27年度主な研修会報告

## 第4回定時総会・研修会　5/28

茨城県県民文化センターにて総会（平成26年度事業報告、平成27年度事業計画、役員改選等の議事）が開催されました。

研修会は茨城県保健福祉部より最新の情報を講演頂きました。また、元厚生労働省健康局長・現千葉大学客員教授で医学博士の矢島鉄也先生による「県民の健康寿命延伸に役立つ栄養士活動について」の特別講演があり、生活習慣病発症・重症化予防の重要性や栄養士の担う役割の大きさを再認識した１日でした。

## 給食施設調理従事者研修会（1日目）9/15

茨城県立健康プラザにて81名の参加がありました。中川学園調理技術専門学校の眞嶋伸二先生による「だしの使い方」の実演でだしのおいしさや減塩への活用を再認識しました。

また、病院管理栄養士による入院患者や地域住民への減塩・食育の取り組みや調理師による行事食・選択メニュー・バイキング献立という患者への食べる楽しみにつなげる心遣いを勉強しました。

## 茨城栄養学術講習会（2日目）12/12

茨城県看護協会にて54名の参加がありました。日本大学歯学部の植田耕一郎先生に口腔内の重要性や食形態について、リハビリの視点・患者に寄り添う視点からご講義頂きました。

また、コレステロール生成のメカニズムや個人差、地域包括支援センターと栄養士の連携の可能性など今後の栄養業務に欠かせない要素が含まれた講義を聞くことができました。

### ＜研修会参加者の声＞

- 中堅やリーダー向けの研修会があるとよい。
- 具体的な症例がある研修会・事例検討会を開催して欲しい。
- 他職域の栄養士の話を聞いてみたい。
- 職場復帰する際のアドバイスが受けられるとうれしい。

他にもいろいろなご意見をお寄せ頂きました。これからも知識・技術向上に役立つ研修会を検討していきたいと思います。（学術部・事業部）

来年度もスキルアップ・
交流の場として研修会に
ぜひご参加ください！

5月

8月

9月

10月

12月

1月

## 新任栄養士研修会 8/6

茨城県立健康プラザにて40名の参加がありました。政安会長をはじめ、専門研究会会長による講義やグループワークを行いました。医療職としての自覚を持つこと、社会への貢献や責任などを改めて考えたり、日々の業務に追われるだけでなく目的意識を持ち続けることの重要性を再確認しました。グループワークでは他職種・利用者・患者等とのコミュニケーションの取り方について話し合い、課題・問題点の把握・改善への手がかりをつかむ良い機会となりました。また、参加者には５年以上の経験を持つ方もおり、広く深く意見交換ができたという感想もありました。

## 生涯教育研修会 10/24

茨城県看護協会にて行われた栄養ケアプロセスに関する研修会には57名が参加しました。武庫川女子大学の雨海照祥先生から栄養管理の重要な統一概念のお話があり、その過程のスクリーニング、アセスメント、診断について学びました。講義を参加型で進めて頂き、また、データの活用・裏付けに必要な文献の検索方法等も具体的にご指導頂き、スキルアップにつながりました。

## いばらき食育推進大会 1/20

ひたちなか市民会館にて開催され、栄養士会員、食生活改善推進員の他、一般の方々を合わせて1,460名の参加がありました。式典では、米飯給食献立コンテスト表彰やヘルシーメニューコンテスト表彰等が行われました。

特別講演には「子どもが作る弁当の日」提唱者竹下和男先生をお招きしました。「食の崩壊が人間の崩壊につながる」という警鐘を心に留め、食べ物を選び、食べることだけでなく、作ることで整えられる人育ての重要性を噛みしめた１日でした。

また、食育に関する活動展示コーナーでは、ヘルスメイト（食生活改善推進員）の活動に関する展示やいばらき健康づくり支援店の取組が紹介されました。

（文責　菊池　嘉代子）

# 常総市水害について

平成27年９月10日，台風18号等による大雨で鬼怒川堤防が決壊し甚大な被害を起こす水害が発生しました。TVニュース等に映し出された様子は，あの東日本大震災の津波を思い起こさせるような本当に恐ろしい光景でした。この水害の被害状況を知り，茨城県栄養士会では政安会長の指示の元，事務局を連絡拠点とし，被災地支援活動を行いました。まず各職域研究会を通して，当会会員の被災状況を把握しました。その結果，家屋浸水の被害に遭われた方が数名いることが分かりました。

またそれと並行して，被災地支援活動のためのボランティアを募りました。そして，９月14日から日本栄養士会災害支援チーム，行政の管理栄養士等と連携し，各避難所を巡回し，被災者の食事の状況や栄養状態と衛生状況の把握を開始しました。その他に具体的には，避難所で生活している方に日本栄養士会や賛助会員様からの支援物資の配布等の栄養・食事支援をしました。

支援物資の中では，特に「野菜ジュース」は野菜が不足気味の方に，「やわらか食」は固い物が食べにくい方に喜んでいただけました。被災地でのボランティア活動は，避難者が少なくなった時点で終了となりました。それから，当会会員で被災された方にも栄養士会として何か出来ることはないか？と考え，仲間である他の会員の皆様に呼びかけして義援金を募りました。おかげさまで被災された会員の方にお見舞金を届けることが出来ました。この場をお借りして，ボランティア活動，義援金の募金にご協力下さいました会員の皆様に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。そして，改めて被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げると共に，少しでも早い被災地の完全復興を心よりお祈り致します。　（文責　大賀　智子）

# 義　援　金　の　お　礼

昨年九月の関東・東北豪雨の際には栄養士会会員の皆様方には多大なるご心配や義援金まで頂戴し、感謝の気持ちでいっぱいでございます。
私共家族は、つくば市に避難し無事でしたが、旧石下町のほぼ全域が水没したのを見て水の恐ろしさを痛感いたしました。今後はこのような災害が無いことを願っております。
大久保　佳子

皆様からのたくさんのお心遣い、大変助かりました。ありがとうございました。自宅は床上浸水しましたが、幸いにも家族全員無事でした。
水害前の生活に戻れるようにもなり、これも皆様のお力添えがあったからこそです。重ねてお礼申し上げます。栄養士会の一員として、これからも尽力して参ります。
庭山　美悦子

この度の鬼怒川氾濫による水害では、皆様よりお見舞いを頂きまして、心より感謝致しております。
自宅は床上浸水、車の水没の被害に遭いましたが、現在は修復が終わり、生活も落着きました。皆様より頂きましたご芳志は、家の修復のために使わせていただきました。有難うございました。
黒川　尚美

関東・東北豪雨により、鬼怒川が越水、決壊し常総市鬼怒川東部地区は大水害に見舞われました。この水害の際、茨城県栄養士会会長様はじめ事務局の方々、県栄養士会会員の皆様、心温める義援金をお送り頂き心から感謝申し上げます。皆様のご健勝と県栄養士会の益々のご発展をお祈り申し上げます。
中嶌　和子

このたびは心温まる義援金をいただき、誠にありがとうございました。
今回の豪雨水害で、我が家は越水の為、日常生活が一変してしまいました。とはいえ、昨年末には、元の生活に戻る事ができております。今回の皆様のお気遣いに対し、心より感謝申し上げ御礼の言葉とさせて頂きます。
門井　華代

県内・県外の多くの方から、ご支援を頂き、ありがとうございました。避難後、自宅周辺の変わり様には呆然とし、気力を失いました。その様な中、栄養士会の仲間や職場の同僚、友人から励ましの言葉を頂き、とても勇気づけられました。そして、日常生活を取り戻すことができ、感謝しております。
芦ヶ谷　紀子

# 会員増にご協力を！

会員の皆様には，日頃より会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

茨城県栄養士会の会員は，現在（3/1）1,142名で，その内の新会員が93名となっております。この数字は，残念なことに年々減少傾向にあります。

本会の主な活動は，県民の健康を守るため栄養士・管理栄養士の資質向上による専門性の強化と社会的評価や地位向上を図ることです。一人でも多くの方に会の存在を知っていただき，会員として一緒に活動していただきたいと考えております。

本会では毎年会員増に向け，様々な検討をしておりますが，来年度は他県の取組みを参考に新会員向け特典を実施することに致しました。具体的には，平成28年度本会が主催する研修会（生涯教育含）の無料受講券6,000円分をプレゼントすることです。会員の皆様にはお近くで未加入の方がいらっしゃいましたら是非お声かけ下さい。宜しくお願い致します。

最後に，全会員にご協力いただいております「栄養会館運営拠出金（一人４万円）」は，栄養士会事務所の維持管理費等として使用されているものです。まだ完納されていない方は分割が可能ですので，納入下さいますようお願い致します。　（文責　山口　雅子）

## 編集後記

「天災は忘れた頃にやってくる」は物理学者の寺田寅彦の警句です。常総市の水害報道を見て東北大震災の恐怖が甦ったのは私だけではなかったことでしょう。募金活動に快く御協力いただいた会員・会員外の皆様方に紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。今号から、長年続いておりましたスタイルを一新してお届け致します。熟読されました後、御意見、御感想をお寄せくだされば幸いに存じます。（文責　小野　富士子）